



キーパーソンとその役割

- **八幡宮農組合 本岡 副代表理事**
おじである日本製粉の役員からの声がけを受け、八幡における国産品種「セトデュール」品種の試験栽培・協同研究をスタート。日本の気候に合わせた栽培方法を6年かけて確立した。
- **加古川市の学校給食担当者**
地域での消費に大きく貢献する学校給食へのパスタの提供(年間2t)を実現し、今後も更に取扱量を増やす予定。

注目すべき特徴及び効果

- 生産が困難なデュラム小麦「セトデュール」の栽培体系を確立したこと(令和2(2020)年の栽培面積: 29.8ha(うち2.3ha種子用))
- 加古川パスタの供給に当たって、地元にあるオーマイ(株)加古川工場があり、「小麦の種子栽培から製麺まで加古川育ちのパスタです」といえる地元生産・地元製造の環境が整っていること
- 加古川市の小・中・養護学校の給食専用の加古川パスタ(通常のハーフサイズ)を製造し、食育や職業体験などを通じ子ども達に地元の食や農を伝える取組を行っていること
- JA直売所や地元飲食店と連携し加古川パスタをPRしていること
- 加古川パスタが加古川市の特産品として、ふるさと納税返礼品に使用されるようになったこと
- 八幡宮農組合で30代、40代を含む24名を雇用し、地域の貴重な就労先となっていること
- 県・市の行政機関、日本製粉(株)などの製造業者、JA、商工会議所、地元飲食店等と加古川パスタの普及に向けた話し合い「加古川パスタランチミーティング」を行っていること

今後の展開

- グローバルGAPの取得
- 「セトデュール」の品質向上(特に、たんばく質含量の増加)
- コロナ禍における飲食店支援(これまで加古川パスタのテイクアウトに取り組む飲食店に無償提供や、取扱店のPRのためのホームページ作成等を実施)
- 生パスタ麺の開発(イタリアンレストランと共同で開発を開始)



審査委員の評価

デュラムセモリナは初の国産の取り組みで評価でき、周辺が住宅という中での農作業という点も評価される。規模の拡大も進展しており評価される。



おもえ 重茂漁業協同組合

岩手県宮古市

「天恵戒驕(てんけいかいきょう)」
の精神のもと守り抜いた「食」と「環境」

取組の概要

- 戦後復興と東日本大震災からの二度の復興の中で、初代組合長の唱えた「天恵戒驕」*の精神で、魚付き保安林や海中林の保護、合成洗剤の不使用、地元海産物を利用した復興商品の企画・販売等6次産業化、地域の小・中・高校生を対象とした給食提供・漁業体験や販売体験等食育等を通して「子孫に誇れる漁村づくり」を推進しています。

※「天恵戒驕」とは重茂漁協初代組合長・西館善平氏が生み出した言葉で、「天の恵みに感謝し、驕ることを戒め不慮に備えよ」という意味。

取組のきっかけ・経緯

- 重茂漁協は、戦後復興期の昭和24(1949)年に設立。漁家のみでなく地域住民の食と環境を守る活動を進めてきました。
- 高度成長期を迎えた1970年代に天然資源が陰りを見せ始めたことから、昭和51(1976)年に取引を開始した生活クラブ事業連合生活協同組合連合会と地域と連携した合成洗剤追放運動や、魚付き保安林の保護のため山の一部を買い取り、海中林保護のために定期的に養殖コンブを給餌するなど環境保全活動を行ってきました。
- また、東日本大震災により甚大な被害を受けた重茂地区では、震災からの復興、風評被害の払拭のため、地元海産物を利用した復興商品を企画・販売するとともに、地元小・中・高校への給食食材の提供や漁業体験、販売体験などを通して、「天恵戒驕」の精神で重茂の持続可能な地産地消に努めています。

地産地消のスキーム

